

菱環鈕 1 I 式 横帯文

「菱環鈕式」

2002 銅鐸の考古学 佐原真 東京大学出版会 p 44~46 引用

菱環鈕 断面菱形の半環状の鈕。すべて兜型であって、鈕の高さが低く、鈕の幅の半分に近い。

菱環鈕式銅鐸

銅質は黒みをおびており、作りは厚手で高さ 20cm 前後の小形品をふつうとする。

身の反りをもたぬものが多く、鱗の幅はせまい。

鈕は、菱環の外斜面と内斜面とがおのおの別の紋様体をなしていることが多い。

身の文様には、2区横帯文と、4区袈裟襷文がある。

この銅鐸群について詳しく述べられているのが、

2006 朝日遺跡（第13・14・15次） 名古屋市教育委員会
朝日遺跡出土の銅鐸鑄型と菱環鈕式銅鐸 p 189~ p 206 難波洋三
こちらからも、参考引用させていただきます。

まず菱環鈕式銅鐸は、1式と2式とに分けられている。

1式と2式の違いは何？

1式は、寸胴。2式は裾広がり。

と説明されることが、多い。この説明もよくわからんですよね。

個人的に、適切なのかどうか知りませんが、

面白く、的を得ていると自画自賛する例えがあります。

それは女性のスカートでの例え。

1式をタイトスカート。

2式をフレアースカート。

解りやすいかと思っただが、逆に解り難いか？

銅鐸のスタートの文様は、鋸歯文と斜格子文から始まります。

しかし、誰が、青銅器に土器の文様を着けようと思ったのだろうか？

このあたりもまた、日本人らしい発想と言えるのだろう。

1式の中では、(I)と(II)に細分されている。

「菱環鈕1I式」 2鐸

※明確な緒のないもの

○出土地不明 東博35509鐸

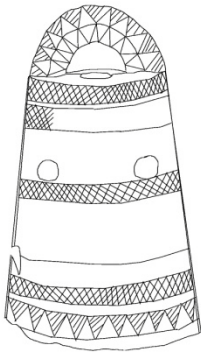
○島根県 荒神谷5号鐸

出土地不明 東博35509鐸 東京国立博物館蔵

菱環鈕1I式 横帯文 高さ 22.3cm

鈕 鋸齒文

舞の型持は一個



観察想像スケッチ

第一横帯、斜格子文と斜格子文の間に文様があったような。

第二横帯、斜格子文であろう。

第三横帯、斜格子文以外の文様があったかも。

難波洋三氏は、綾杉文の横帯を飾るとしているが、どこに綾杉文があるのか、わかりません。

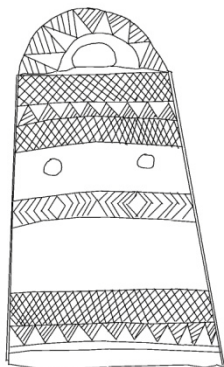
島根県 荒神谷5号鐸 島根県立古代出雲歴史博物館蔵

菱環鈕1I式 横帯文 高さ 21.7cm

鈕外斜面・鋸齒文 鈕内斜面・斜線文

無軸の綾杉文の第2横帯

舞の型持は一個



観察想像スケッチ

第一横帯は、斜格子文と鋸齒文と斜格子文の3条

第二横帯は、不思議な無軸の綾杉文

第三横帯は、斜格子文と鋸齒文

下界線は、2条のように見えるが、どうなんだろうか？

この銅鐸たちを見ていると、どこで、どうなって、1 mを超える銅鐸になっ
ていくのか、人間で言えば、幼児が成長していくような。
そう、第一次成長期で石製鑄型ということでしょうか。
第二次成長期で土製鑄型となるのでしょうか。

不思議な世界を見せてくれる銅鐸。
いつまでも飽きないですね。
ここから、長い長い謎の世界を見せてくれるのです。